

WORLD FEDERATION OF BUILDING SERVICE CONTRACTORS

WFBSC

BERLIN 2017

18-20 September 2017 | Berlin ExpoCenter City

第 22 回世界ビルメンテナンス大会報告書

22nd Congress of WFBSC Berlin 2017



2017年9月17日（日）～20日（水）

ドイツ・ベルリン

世界ビルサービス連盟

公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会

■大会概要■

1. 大会テーマ 『デジタル世界における清掃』

原題 Cleaning in a Digital World ～Processes, People, Technology～

2. 大会プログラム

9月17日（日） 会場：ホテルインターコンチネンタル

18：00～21：00 歓迎レセプション

9月18日（月）

09：00～10：45 開会式典（会場：メッセベルリン）

11：15～12：45 基調講演（同上）

16：00～18：30 シュプレー川ボートツアー

19：30～22：30 スポンサーナイト（会場：ヴェザーヴェルク）

9月19日（火） 会場：メッセベルリン

09：00～10：30 スポンサー講演／ディバナーシー

10：30～17：00 講演・パネルディスカッション

9月20日（水） 会場：メッセベルリン

09：00～10：30 スポンサー講演／ケルヒャー

10：30～14：00 講演・パネルディスカッション

14：00～14：30 閉会式典

19：00～22：30 ガラ・ディナー

3. 登録者数 43ヶ国・地域から 計536名

日本	37	カナダ	2	スウェーデン	1
アルジェリア	1	韓国	21	スイス	12
アルゼンチン	18	ルクセンブルク	1	セネガル	2
オーストラリア	10	マリ	1	シンガポール	7
ベルギー	11	メキシコ	6	スペイン	9
ブラジル	38	ネパール	2	スリランカ	1
ブルキナファソ	1	ニュージーランド	7	台湾	3
中国	2	オランダ	13	トーゴ	1
デンマーク	5	ナイジェリア	1	チュニジア	1
ドイツ	252	ノルウェー	3	トルコ	3
コートジボアール	2	オーストリア	5	UAE	1
ギリシャ	1	ペルー	2	米国	25
イラン	1	ポーランド	4	英国	12
イタリア	7	ポルトガル	1		
カメルーン	2	サウジアラビア	1		

■大会報告■

世界ビルサービス連盟が主催する「第22回世界ビルメンテナンス大会」が9月17日（日）から20日（水）迄の4日間、ドイツのベルリンで開催され、43の国と地域から代表536名の参加があった。

（公社）全国ビルメンテナンス協会が日本代表団を募り、37名が出席した。

日本代表団は、旅程を個人で手配された参加者を除いて、9月16日（土）に日本を出発し、現地時間の同日深夜にベルリンに到着した。

9月17日（日）午前中、市内建築物視察を行い、昼食会を兼ねた結団式を行った。

当日の夕刻に歓迎レセプションがベルリン・インターコンチネンタルホテルで開催され、大会が幕を開けた。

9月18日（月）には開会式典が開催され、現地の来賓に加えて、日本国からは、加藤 勝信 厚生労働大臣のメッセージが、（公財）日本建築衛生管理教育センター 関谷 繁二 事務局長の代読により披露された。

大会期間中は、講演会やパネルディスカッションなどのセッションや、併催された展示会「CMS ベルリン 2017」が実施され、世界の業界動向や最新機器等が紹介された。

なお、次回開催日程及び開催地について現時点で未定である。

※ ※ ※ ※ ※

①世界ビルサービス連盟理事会

大会に先立ち、世界ビルサービス連盟加盟国による理事会が「インターコンチネンタルホテル」で開催され、一戸会長が直前会長として、興膳顧問が理事として出席。

理事会では、今大会のプログラムなどを確認した上で、懸案となっている今後の連盟組織のあり方について議論された。

しかしながら、各国協会の合意が得られず、次回大会の開催日程及び開催地についても、結論を出す事が出来なかった。

なお、次期世界連盟会長としては、スタン・ドゥービン氏（米国）が選任された。



（左写真）世界連盟の直前会長として理事会で意見を述べる一戸会長

（右写真）休憩中のアジア3協会（日本、韓国、台湾）による首脳会談

②歓迎レセプション 9月17日（日） 18:00～21:00 インターコンチネンタル

理事会に引き続き「歓迎レセプション」が、開催された。

主催者を代表してトーマス・ディートリッヒ世界連盟会長が挨拶を述べ、一堂に会した各国代表団を歓迎した。



(左写真) 歓迎挨拶を述べる世界連盟トーマス・ディートリッヒ会長（ドイツ）
(右写真) 歓迎レセプションに参加した村田副会長

③開会式典 9月18日（月） 9:00～10:30 メッセベルリン

歓迎レセプションから一夜あけた翌日、いよいよ大会の幕を開ける「開会式典」が、メイン会場であるメッセベルリンで開催された。

まずは、トーマス・ディートリッヒ世界連盟会長が主催者挨拶を述べ、テロなど緊張感の高まる国際情勢の中でたくさんの参加があったことに、感謝の意を示した。

また、文字通りヨーロッパの中心に位置する開催地ベルリンが、東西統一以後の急速に変化を遂げるドイツの象徴的な都市であることを語り、今大会のテーマにもある「デジタル化」など、変化が求められるビルサービス業界の関係者にとって、今大会を有意義なものにしたいと抱負を述べた。

その後、地元の有力な行政関係者が来賓挨拶を述べ、EUの欧州委員（デジタル経済・社会担当）ギュンター・エッティンガ氏、ベルリン副市長ラモナ・ポップ氏、ヨーロッパ清掃産業連盟（EFCI）イヴァン・フィレマンス会長が登壇した。

さらに、日本から加藤勝信厚生労働大臣のメッセージが届けられ、公益財団法人日本建築衛生管理教育センターの関谷繁二事務局長が登壇し、代読した。

メッセージの内容は以下の通り。

《メッセージ》日本国 厚生労働大臣 加藤 勝信

第22回世界ビルメンテナンス大会がここドイツ・ベルリンにおいて盛大に開催されることを心からお慶び申し上げます。

また、私のメッセージを本日ここにお集まりの皆様、さらに世界各国でビルメンテナンスサービスに携わる方々にお伝えできることを大変光栄に存じます。

さて、日本国においては、1960年代の高度経済成長期において、都市部を中心に多くのビル建築物が建設されましたが、環境衛生上の維持管理が十分ではなく、健康被害に係る問題が生じていました。

このような中、1970年にはビルの衛生管理に関する法律が制定されました。以来、ビルメンテナンス業の方々を中心に、空気環境や給排水の管理、日々の清掃、ねずみや衛生害虫の防除など、ビル建築物の衛生的環境の確保に取り組まれてきた結果、その衛生環境は劇的に向上し、今日では大変良好な環境が維持されるようになりました。

昨今、経済のグローバル化、都市の発展、建築技術の進歩等に伴い、世界各国でビルの数は増加し、その高層化、大規模化が一層進んでいるところです。建築物を取り巻く変化に対応しつつ、快適かつ安全な環境を確保し、そこで活動する人々の健康を守るという、ビルメンテナンス業の果たすべき役割がますます重要となってきたのは世界共通であると思います。

お集まりの皆様方一人ひとりが、この機会にビルメンテナンス業の使命を改めて認識しつつ、積極的に各国の皆様と交流いただき、各国のこれまでの経験とそこから得た知見や技術などについて、一つでも多く吸収することが大変有意義であり、これがひいては、世界のビルメンテナンス業界の発展に資するものであると考えます。

最後に、本大会の御成功と世界のビルメンテナンス業界のますますの御発展並びにお集まりの皆様の今後ますますの御活躍を祈念し、私の挨拶といたします。

以上



(左写真) 主催者挨拶を述べる世界連盟トーマス・ディートリッヒ会長 (ドイツ)
(右写真) 厚生労働大臣メッセージを代読する関谷事務局長

④基調講演 9月18日(月) 11:45~12:45

- (1)「新時代のリーダーシップ」／アンニャ・フェースター
- (2)「デジタルネットワークの機会とリスク」／ダニエル・ドムシェイトベルク

開会式典に引き続き、基調講演となった。

1人目は、地元では著名な女性起業家で作家のアンニャ・フェースター氏。

同氏は、現代に求められる経営者像を説き、「明後日のことを考えなければ、明日はない」と述べ、「これしかない」にしがみつ়くことが最も危険な行為であり、ともすればルールを変えていく姿勢がリーダーに求められると語った。

2人目は、ダニエル・ドムシェイトベルク氏で、長年、インターネットにおける情報の流動性と透明性について論じてきた人物。

同氏はまず、日産自動車を例に挙げ、製品のライフスパンが急速に短くなる中で、ドイツが誇る自動車業界も過去の栄光にすがってはならないと警鐘をならした。

また、デジタル化社会におけるリスクとして、建築物に関する空調システム、警備、省エネルギー、顧客管理などが電子化されている中、たくさんの従業員を抱えるビルサービス業界において、情報セキュリティの重要性について解説した。



(左写真) 大会中総合司会を務めたキャシー・スミス氏

(右写真) 開会式典と基調講演に参加した日本代表団の面々

⑤シュプレー川ボートツアー 9月18日(月) 16:00~18:30

⑥スポンサーナイト 9月18日(月) 19:30~22:30 会場:ヴェザーヴェルク

開会式典があった初日の午後は、ベルリン市内を流れるシュプレー川に出向き、現地主催者による「ボートツアー」が催された。

また、夕刻は、ダイヤモンドスポンサー2社(ディバーシー、ケルヒャー)主催のレセプションがドイツならではのビール工房「ヴェザーヴェルク」で開かれた。



(左写真) ボートツアーで現地のビールを飲み干す佐々木副会長

(右写真) スポンサーナイトで挨拶するディートリッヒ会長と2社代表

⑦スポンサー講演／ディバーシー 9月19日(火) 9:30～10:30

「デジタル清掃は神話なのか現実なのか」／イルハム・カドリ (シールドエアー)

大会3日目を迎えた火曜日からは、早朝から本格的なセッションが始まった。

まずは、ダイヤモンドスポンサーによる講演として、日本大会でも講演を行ったシールドエアー社ディバーシーケア社長イルハム・カドリ氏。

カドリ社長は、デジタル化が進む企業経営における課題を語り、自社ブランド”TASKI”の「インテリボット」などの性能を紹介した。

また、女性従業員が安心して子どもを育てながら仕事が出来て、この業界で働きたいと思えることが望ましいと述べた。

⑧講演 9月19日(火) 10:30～11:15

「増大する仕事～サービス業界における労働環境のデジタル化の効果～」

／エディ・スタム

エディ・スタム氏は、スイスに本部を置くUNI グローバル・ユニオンで清掃部門の責任者を務める人物。労働組合の立場から講演を行った。

同氏は、経営者側から見て深刻な専門的な人材不足がもたらす人件費の高騰は、組合の立場としては歓迎すべきだが、顧客から利益を上げられない構造は、将来的な不安をもたらすと懸念を示した。

また、デジタル化、インターネットの普及によって、労働者が「自立」をしていく環境の中で、「労働者は顧客のために働いているのではない」と述べ、経営者に求めるものとして、「公平性」「機会均等」「人権」「社会保障」「将来保証」を上げた。

⑨講演 9月19日(火) 11:45~12:30

「IoT (Internet of Things) 物のインターネット : FM 業界における競争の変化」

／スティーブン・ランバート

不動産会社MCS社COO スティーブン・ランバート氏は、経済界の流行語ともいえる「IoT」をテーマにビル経営者の視点で講演を行った。

同氏は、自分の使命を「人のためのビルを作ることだ」と語り、あくまで人を中心とした建物管理にこだわりを見せた。

また、自社ビルでのIoTの事例紹介を行い、いわゆる「スマートビルディング」の導入として、建物の利用状況をオンラインで監視、様々なデータを把握し、空調システムなどを必要なときに必要なだけ提供する省エネに配慮していると語ったが、抵抗感なくユーザーにもメリットがあり、顧客にもメリットがある最適化を目指すには、関係者とのディスカッションが重要であると述べた。

⑩対談 9月19日(火) 12:30~13:00

「サービス業のプラットフォーム : 業界の諸課題について」

ドイツ協会理事のヨハネス・ブンガート氏のリードで、IT企業創業者で経営者のズヴェン・ホック氏を相手にショート対談が設けられた。

この対談では、主に会社経営の管理部門に焦点が当てられ、見積書や請求書の作成といった会計処理のデジタル化が話題となった。

「中小企業にとってデジタル化は無縁なのでは?」という問いに対してズヴェン氏は、利益率の少ない業界にとって業務の効率化は不可欠であり、中小企業こそ改善の余地が大きいので関心が高まるだろうと述べた。

⑪講演 9月19日(火) 14:30~15:15

「“サンキュークリーナーデー” 活動」／リリアン・スモール (ニュージーランド)

ニュージーランド協会を代表して登壇したリリアン・スモール氏は、いわゆる社会貢献活動の取り組みについて講演した。日本で言えば「絵画コンクール」といった事業で、清掃業界が生活必須産業として一般社会に向けてアピールするのが狙い。

ポスターや、マスメディア、あるいはフェイスブックなどのSNSツールを活用したキャンペーン活動で、従業員が「楽しく仕事出来る」ように、モチベーションをアップすることも目的の1つとして活動していることを報告した。

⑫パネルディスカッション 9月19日(火) 15:15~17:00

「ビジネスパートナーの視点からのデジタル化」

パネラー:

ポール・チャーチ (トーク社 マーケティング部長)

ブライアン・メーザー (エコラブ社 欧州事業部副会長)

フランシスコ・ムニョス (INPACS社 CIO)

フランク・ヴァンクラエフェルト (タナ・ケミエ社プロフェッショナル部門長)

「ビジネスパートナー」視点ということで、今大会にスポンサーとして参加している各資機材メーカーの重役が、デジタル化に伴う経営課題について討議した。

電子化によるデータ分析のシステム化や、ロボット化、管理計画立案のオンライン化の可能性と、開発コストや保全コストなど費用対効果の課題について議論されたが、実践のためには従業員教育が不可欠だとした上で、デジタル化は経営課題の解決法の1つであり、あくまで「人のために人が働く業界」であることを強調した。

⑬スポンサー講演／ケルヒャー 9月20日(水) 9:30~10:30

「静的な経験に基づいた清掃から、動的な知識に基づいた清掃への転化」

／マルクス・アッシュ (ケルヒャー社副会長)

最終日となった大会4日目の水曜日、前日に引き続き、ダイヤモンドスポンサーによる講演として、日本大会でも講演を行ったケルヒャー社のマークス・アッシュ副会長が登壇した。

アッシュ氏も、デジタル化のキーワードとなっている「ロボット」を話題に取り上げたが、あくまで清掃業界には人の存在が不可欠であり、人とロボットの共存、「コラボティブ・ロボット (コ・ロボット)」の考え方を提唱した。

「ロボットが人に置き換わることは絶対にあり得ない」として、重要なのは新技術導入に伴う人材育成の必要性であると力説した。そして、経営者の課題は、何処に何をどれだけ投入するのかという「最適化」と、リスクを恐れない「チャレンジ」であると締めくくった。

⑭講演 9月20日(水) 10:30~11:00

「スマートビルディングがもたらすスマート清掃」／デビッド・ウィリアムス

マイクロソフト社デジタルアプリ開発部で設計者として活躍するウィリアムス氏が講演し、スマートビルディングの可能性について解いたが、顧客のニーズを満たすために重要なのは「シンプル」であることと述べている。

⑮講演 9月20日(水) 11:30~12:00

「サービス業界におけるデジタル化の経験値」／ピーター・アンカスターネ

デンマーク・コペンハーゲンに本拠を置くヨーロッパの大手清掃会社 ISS からは、マーケティング部門の責任者ピーター・アンカスターネ氏が登壇した。

同氏は、オフィス、公共施設、あるいは住宅といった、建築物の用途やユーザーの属性によって作業現場のデジタル化も当然変わってくるとして、懸念される経費支出の問題は、経験値を上げることでコストダウンが実現できるだろうと述べた。

⑯パネルディスカッション 9月20日(水) 12:30~14:00

「技術と将来展望がもたらす挑戦～ビルサービス業界におけるデジタル化戦略」

司会進行:

ウィルムス・ビューズ教授

パネラー:

ピーター・アンカスターネ (ISS)

クロード・ビグラス (世界連盟カナダ代表理事)

スタン・ドゥービン (世界連盟アメリカ代表理事)

クリスティアン・クローフェコーン (ドイツ協会理事)

ミルトン・ン (シンガポール協会会長)

大会のプログラムを締めくくるセッションとして、世界連盟の理事を中心としてパネルディスカッションが設けられ、業界の将来展望について議論された。

⑰閉会式典 9月20日(水) 14:00~14:30

全ての講演プログラムが終了し、閉会式典が執り行われた。

まずは、トーマス・ディートリッヒ世界連盟会長が閉会挨拶を述べ、各国参加者と協賛スポンサーなど関係者にむけた御礼の言葉が発せられた。

また、今大会の実行委員としてクリスティーヌ・ズードップ世界連盟ドイツ代表理事に対して労いの言葉が投げかけられ、花束贈呈がなされた。

そして、冒頭報告の通り、次回第23回大会の開催日程や開催地については未定であるものの、理事会で選出されたスタン・ドゥービン氏(米国)が新会長としての挨拶と抱負を述べ、式典は滞り無く終了した。

⑩ガラ・ディナー 9月20日（水）19：00～22：30 パレス・フントウム

大会最後の催しとして、「ガラ・ディナー」（さよなら晩餐会）が、メイン会場のメッセベルリン隣接のレセプションホール「パレス・フントウム」で開かれた。

トーマス・ディートリッヒ現会長が、最後の挨拶を述べて任を終えると同時に、会長職がスタン・ドゥービン氏に引き継がれ、第22回世界ビルメンテナンス大会は幕を下ろした。



（左写真）閉会式典におけるスタン・ドゥービン新会長の就任挨拶
（右写真）ガラ・ディナーに参加する日本代表団。最後の乾杯

※ ※ ※ ※ ※

■まとめ■

「世界大会」と主催者たる「世界ビルサービス連盟」（以下、世界連盟）が岐路に立たされている。

まず、前代未聞ともいえるのが、次回大会が現時点でも決定していない事である。

本来であれば、最終日に次回大会のPRを兼ねたレセプションが開かれ、開催国の会長が世界連盟の会長職を引き継ぎ、そして任期中、世界連盟の最大の事業である世界大会の準備と運営を責任もって務めるのが従来のあり方であった。

今大会も大会自体は大過なく終了したが、高額な登録料に見合うものとは、残念ながら言い難い。各種講演の内容も、「デジタル化」といった日本でもIT化、ロボットと流行のキーワードではあるが、概念的な話題、もしくはスポンサーの意向を汲んだ各企業の事例紹介に過ぎず、具体的な経営課題の解決策は見出せなかった。

世界連盟の内部では、スポンサーや企業会員などの加入を推進し、より商業主義を強めようとする欧米の考え方が、日本などのアジア諸国と大きく異なっている。

日本協会としては創立メンバーでもあり、「世界規模のネットワークを持つ」ことを示す社会的地位を堅持することを事業の目的として、世界連盟の体制維持に協力したいところではあるが、日本の会員の理解を得るためには、より世界大会が身近で参加しやすいようにすることが、最大にして喫緊の課題であると考えられる。

【御礼】



このたび「第22回世界ビルメンテナンス大会」にご参加賜りありがとうございます。
日本代表団の皆様におかれましては、渡航先で何かと行き届かない点があったかと存じますが、ご容赦賜りますようお願い申し上げます。

おかげさまをもちまして、皆様のご協力により今大会は大過なく終了し、43の国あるいは地域から総勢536名が参加しました。

うち日本代表団は、同伴者含めて37名ご参加いただきました。

あらためて、御礼申し上げる次第でございます。

短い滞在期間ではございましたが、国内外の業界関係者との間で、お互いに親交を深めていただけましたら、幸いです。

また、今大会開催にあたって、周知ご協力いただいた各都道府県協会、各地区本部、各会員の皆様におかれましては、多大なるご支援に深く感謝申し上げます。

引き続き、弊会事業推進にご理解とご協力を、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、現時点で、次回第23回大会の開催地及び日程ともに決定しておりませんが、2019年に台湾で第7回アジアビルメンテナンス協会の開催が決定しております。

是非、皆様方と再会致したいと存じますので、どうかよろしくようお願い申し上げます。
皆様、どうもありがとうございました。

2017年11月19日

公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会 会長

一 戸 隆 男

Takao Ichinohe, Past President

World Federation of Building Service Contractors

＜第22回世界ビルメンテナンス大会日本代表団名簿＞ ※順不同（敬称略）

	会社名	参加者名	地区
1	興和ビルメンテナンス（株）	一戸 隆男	会長／東京
2	（株）カルフト	中野 信博	副会長／中国
3	東朋産業（株）	村田 茂行	副会長／関東甲信越
4	協和ビルサービス（株）	佐々木 洋信	副会長／近畿
5	（株）ベリージャパン	山田 春雄	北海道地区本部長
6	（株）ベリージャパン	山田 恭子	北海道
7	日興美装工業（株）	櫻井 和久	北海道
8	（株）ジャレック	佐々木 浩二	東京地区本部長
9	（株）ビケンテクノ	梶山 龍誠	執行委員／東京
10	（公社）東京ビルメンテナンス協会	石井 千寿	東京地区本部事務局長
11	（株）セイビ	島田 四郎	東京
12	興和ビルメンテナンス（株）	一戸 千恵子	東京
13	（株）サンシャインシティ・ビルマネジメント	内山 和幸	東京
14	（株）サンシャインシティ・ビルマネジメント	日下部 慎一	東京
15	ANA スカイビルサービス（株）	須田 守男	東京
16	（株）ハリマビステム	鴻 義久	相談役／関東甲信越
17	（株）ハリマビステム	鴻 信子	関東甲信越
18	日本環境マネジメント（株）	片山 安茂	関東甲信越
19	国際ビルサービス（株）	鳥谷 尚道	関東甲信越
20	（株）ケントク	森 芳昭	近畿
21	（株）ケントク	森 千代子	近畿
22	建美商事（株）	田邊 樹希	近畿
23	（株）大清社	牛村 憲由	近畿
24	（株）大清社	牛村 将之	近畿
25	（株）大和研装社	古賀 健一	近畿
26	（株）大和研装社	古賀 美樹	近畿
27	（株）ビケンテクノ	梶山 孝清	近畿
28	新光明飾（株）	中川 俊	近畿
29	（株）カルフト	中野 千代	中国
30	（株）朝日ビルメンテナンス	金子 誠	九州地区本部長
31	（公財）日本建築衛生管理教育センター	関谷 繁二	関連団体
32	（公財）日本建築衛生管理教育センター	杉山 順一	関連団体
33	日本環境管理学会	久保 猛志	有識者理事
34	日本環境管理学会	久保 くにえ	有識者
35	（公社）全国ビルメンテナンス協会	興膳 慶三	顧問
36	（公社）全国ビルメンテナンス協会	興膳 知子	
37	（公社）全国ビルメンテナンス協会	伊林 泰佑	事務局